

改善の動きが多く見られるも、依然としてマイナスで推移。

山口商工会議所では、管内中小企業99社を対象に景況調査を実施し、このほど令和6年7～9月期実績と令和6年10～12月期見通しについての調査結果（回答数83社、回答率83.8%）をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

業況DI値について、今期（令和6年7～9月期）の状況を集計したところ、業況判断DI値は、前年同月比で、サービス業以外は10%以上の改善が見られるも、変わらずマイナスで推移している。売上については、製造業、小売業以外は増加しており、特に建設業は▲36%から▲17%と大幅に増加した。また、資金繰りについては小売業以外では上昇に転じているが、依然としてマイナスで推移している。仕入単価については、建設業、小売業以外は低下が見られた。全産業で見ると、2期連続で上昇している。経常利益については小売業で▲50%から▲21%と大幅に上昇しており、他の業種については大きな変化はなかった。

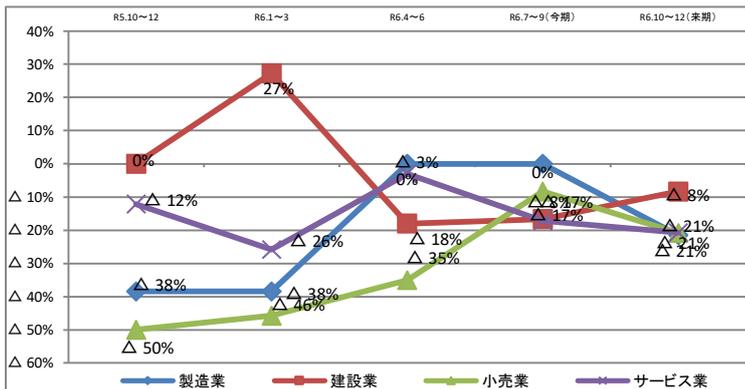
今期中に設備投資を実施した企業は全体の17%、来期設備投資を実施予定の企業は16%であり、今期から来期にかけて設備投資への意欲はほぼ変わらない。

経営上の問題点については、仕入れ単価の上昇、需要の停滞、ニーズの変化への対応が引き続き上位に入っている。

◆業況DI値（今期の状況）

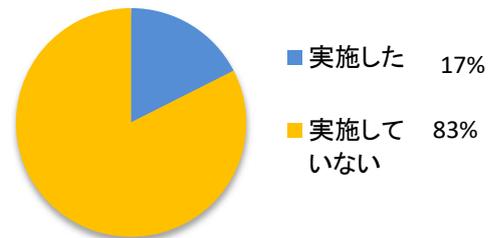
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△12%	↗	△18%	→	△15%	↗	64%	↗	△22%	↗	△10%	↘
製造業	0%	→	△21%	↘	0%	↗	73%	↘	△7%	↗	△14%	↘
建設業	△17%	↗	△17%	↗	△17%	↗	58%	↗	△33%	↘	△8%	↗
小売業	△8%	↗	△33%	↘	△29%	↘	65%	↗	△21%	↗	0%	↘
サービス業	△17%	↘	0%	↗	△7%	↗	58%	↘	△24%	↘	△12%	↗

◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）

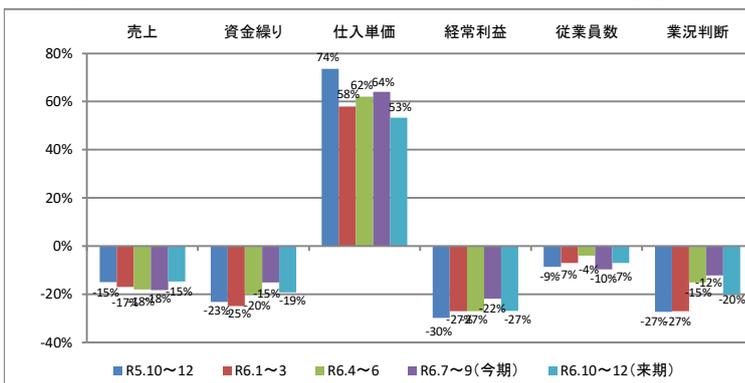


◆新規設備投資（今期実施・来期計画）

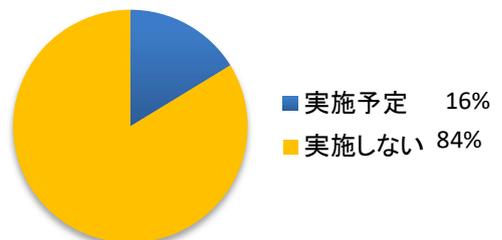
【今期設備投資】



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期設備投資計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 22.2%	官公需要の停滞 23.8%	仕入単価の上昇 22.7%	材料等仕入単価の上昇 16.9%
2位	製品ニーズの変化への対応 18.5%	民間需要の停滞 14.3%	需要の停滞 18.2%	利用者ニーズの変化への対応 15.3%
3位	原材料価格の上昇 18.5%	材料価格の上昇 9.5%	購買力の他地域への流出 11.4%	従業員の確保難 13.6%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。